

# 別冊 | 史の杜

F U M I N O M O R I



東北大学

**U-history**  
CNEAS, Tohoku University

東北大学東北アジア研究センター  
上廣歴史資料学研究部門 (U-history)

No. **12**

地域の歴史を知る

## 真山白河家の歴史と書写資料

発行日 / 2025年9月18日  
編集 / 大崎市教育委員会文化財課  
発行 / 東北大学東北アジア研究センター  
上廣歴史資料学研究部門  
〒980-8576 仙台市青葉区川内41  
TEL/FAX 022-795-6084  
URL <https://uehiro-tohoku.net/>  
デザイン・印刷 / 株式会社東誠社



令和7年度旧有備館および庭園秋季企画展

「松平定信の書写収集事業—真山白河家の歴史と書写資料—」

大崎市岩出山字下真山の白河家について、大崎市教育委員会では『岩出山町史 通史編』の発行（平成21・2009年）後も継続調査をし、その結果、『町史』で取り上げることができなかった旧鳴子村（現大崎市鳴子温泉）の「本山銅山」開発に関する記録や、多数の中世「白河結城家文書」を江戸時代後期に書き写した資料の発見が続きました。また、この「書写資料」が、誰によって、どのような過程を経て、作成されたのかがわかる文書群も確認できました。古文書の解読は、地元の「岩出山古文書を読む会」に依頼し、毎週集まって読み合わせを行っています。分析は緒に就いたばかりですが、同家に眠っていた古文書が新たな研究に影響を及ぼすことがあれば、いち早く情報を発信すべきではないか、と判断いたしました。これまであまり世に知られていなかったのは、江戸時代に改姓・復姓をしてきたことや、近年の家訓として「古文書は門外不出」として秘蔵されてきたことによります。このたび、幸いに所蔵者の白河宗義・広哉両氏からご理解を得て公開することができました。多くの皆様にご来場いただき、今後の調査に弾みをつけたいと考えています。

なお、今回は、栗原郡真坂村（現栗原市一迫真坂）に仙台藩から「所」を拝領していた一門の白河家を「本家」または「真坂白河家」と称し、玉造郡下真山村（現大崎市岩出山）に分知を受けて在住した白河家を「分家」または「真山白河家」と記載しています。

本誌は、2025年9月18日（水）から11月24日（月）に開催する旧有備館および庭園秋季企画展「松平定信の書写収集事業—真山白河家の歴史と書写資料—」（主催：大崎市教育委員会、東北大学東北アジア研究センター上廣歴史資料学研究部門）をもとに作成しています。

## \* 真山白河家の歴史

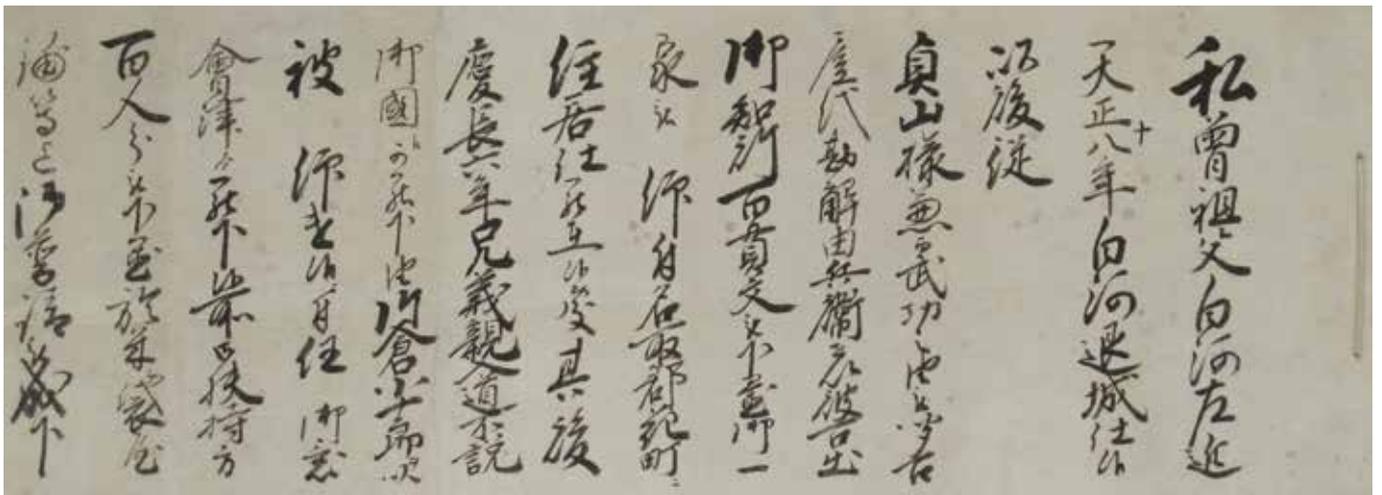
### 変転その1 白河から仙台へ

真山白河家の家祖は、戦国時代の白河領主で、のちに伊達政宗に招かれて仙台藩の家臣となった白河義親の弟・義名です。真山白河家が所蔵する「藤原姓白河系譜」によれば、義名は左近大夫、または左近亮と名乗り、白河結城家宗家の白河左京大夫晴綱の次男にして、分家の小峰朝脩の家を嗣いだとあります。

※この出自には諸説・異説があるようです。

白河氏は天正18年（1590）の豊臣秀吉による小田原城攻めに兄義親が遅参したために、兄弟ともども領地を没収されてしまいました。義名は翌年に政宗国老の屋代勘解由兵衛景頼に招かれて、名取郡植松（現名取市）に1,000石を領しました。

遅れて慶長6年（1601）に兄の義親が会津から仙台へ移り、初めは扶持米100石を与えられ、米ヶ袋（現仙台市青葉区）に屋敷を置いたとあります。



「白河主馬由緒書上」延宝3年（1675）10月（真山白河家文書、以下とくに記載のない場合は同じ）この主馬は半太夫朝次です。曾祖父白河左近が天正18年に白河を退城し、本資料によると名取郡花町（現名取市）に住居を置いたこと、その兄義親が慶長6年に政宗の御意により仙台藩に移って来たこと、さらにその後の真山白河家の変化も記しています。

### その2 御家断絶から再興へ

本家の当主義親が老齢で眼病を患っており、嗣子も無いことから義名の嫡男義綱（幼名忠三郎）が本家を相続することになりました（相続年不詳）。この時義名は既に没しており、家は断絶することになります。しかし2代藩主忠宗は、義綱の次男半兵衛朝景に祖父義名の家名を継ぐことを命じ、寛永年間（1624～44）に分家として再興することができました。



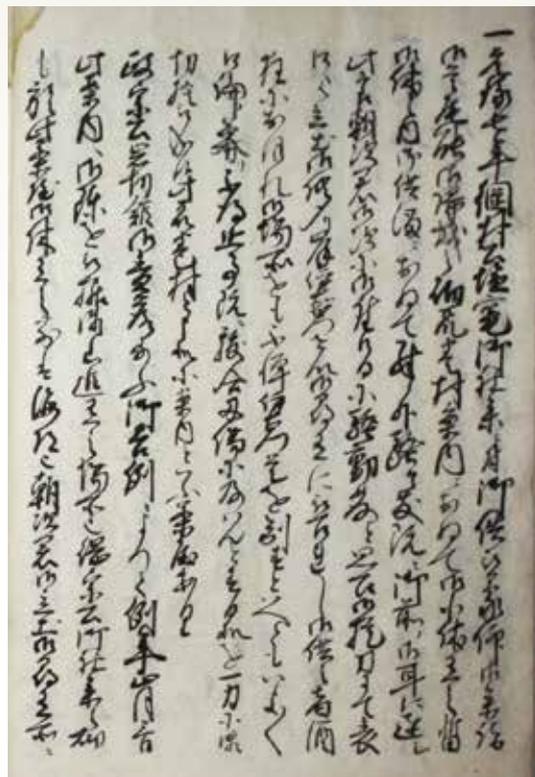
### その3 朝次、不調法にて「改易」 —家禄・屋敷の没収—

白河朝景の後は、渋川助太夫常次の次男・半太夫朝次を形式的に本家4代・宗広の義弟とし、朝景の娘婿として家を継がせました。朝次は4代藩主綱村の塩竈神社参拝のとき、仙台藩の小姓頭に任命されていましたが、茶屋での休憩時に酒気を帯びた従者を手打ちにするという事件を起こし、「不調法」を問われて元禄5年（1692）に家禄没収、改易となりました。

朝次は宮城郡実沢村（現仙台市泉区）で重臣高橋権兵衛の扶助を受けながら隠遁生活を送りましたが、宝永7年（1710）同所で死去し、宮城郡国分小角村観音寺（現仙台市泉区）に葬られました。

「高橋権兵衛覚書」宝永7年（1710）11月

主君朝次を支え続けた重臣高橋権兵衛の覚書です。朝次の生涯や家禄没収の原因となった騒動の顛末が書き記されており、後世に正しく伝えたいという権兵衛の思いが伝わります。



### その4 2度目の「再興」、「北」を名乗る

本家は、宗広の時代の延宝3年（1675）に仙台藩一門十番座に格上げとなり、本家5代・村親の時、享保3年（1718）にこれまでの真山館から栗原郡の真坂館に移りました。分家3代・朝定は本家に寄食していましたが、享保15年（1730）5代藩主吉村の内意を受けた村親が、自分の知行地内から朝定に玉造郡下真山村の30石を分知することを願い出ました。このとき朝定は「白河」の姓を名乗ることを遠慮し、先祖由来の「北」という姓で奉公することになりました。ようやく御家は再興され、「北（白河）」家の誕生です!! その後、景次・直次と継承し、下真山村を本拠としながら、少しずつ加増やさらなる分知を受けて武士としての安定した暮らしが続きました。

真山白河家のたたずまい（大崎市岩出山字下真山小坪）

背後に見える社は通称「峯不動尊」で、本家がこのに在郷屋敷を構えた時に建立したものと伝えられています。その後分家の屋敷となっただけで、8月28日の祭礼には本家当主が100人あまりの家来を引き連れて訪れ、相撲興行などもあって盛大な祭りが催されたようです。（文化14年（1817）正月より文政元年（1818）まで「年中日記」）





## その5 悲願の「白河」復姓へ

北甚三郎景秀は文化11年（1814）に玉造郡鳴子村（現大崎市鳴子温泉）の花淵山中腹に「本山銅山」を開発し、藩に献上するなどの功績を挙げ、文政3年（1820）の知行高は166石となりました。

翌年本家8代・村雄が藩に願い出て、景秀は悲願の「白河」姓に復することができ、このとき、北景秀は「白河久馬」と名を改めたのです。

しかし、復姓前の景秀にとんでもない大仕事もたらされました。



「本山銅山付近遠景」  
白河家の家運昇竜のカギは、鳴子村で開発した「本山銅山」採掘の成功でした。銅山跡の一部は、現在鳴子ダムとなっています。

**真坂・真山白河家略系図**

真坂白河家（本家）  
 初代・七郎義親―二代・宮内義綱―三代・志摩義実―  
 四代・主殿宗広―五代・上野村親―六代・上野村広―  
 七代・上野村祐―八代・弥七左衛門村雄―九代・七郎宗秀

真山白河家（分家）  
 白河義名―義綱・・・  
 初代・半兵衛朝景―二代・白河主馬朝次―三代・北半太夫朝定―四代・北助之進景次―五代・北半太夫直次―  
 六代・北甚三郎景秀（白河久馬）―七代・白河忠三郎秀常

※本系図では、御家再興後の朝景を初代としています。



## \*真山白河家に残る「白河結城家文書」書写資料

### 白河結城家文書とは？

白河結城家の先祖は、現在の栃木県一帯を治めていた小山政光とされ、その三男朝光は源頼朝に従って勲功を挙げ、下総国結城郡（現茨城県結城市）を拝領し、結城家初代となりました。その後、結城氏の一族が陸奥国白河荘（現福島県白河市）に移り、白河結城家が誕生しました。白河結城家は南奥羽の有力国人として活躍していましたが、分家である小峰氏との内紛で勢力が衰えたうえ、戦国時代には周辺勢力の影響が強まり、佐竹氏や伊達氏などと勢力争いが繰り返されました。天正18年（1590）に豊臣秀吉によって領地を没収され、一族は白河の地を去り、各地に分散することになりました。「同文書」は、白河荘を本領としていた時代に成立した白河氏ゆかりの文書群で、その数は約800点に及ぶといわれ、伊達家文書・上杉家文書に匹敵すると位置づけられています。



# 白河結城家文書書写資料とは？

戦国末期以降、各地に移った白河氏は伝来の古文書を携えて、大切に保管していたようです。とりわけ、江戸時代に秋田藩士となった結城白川氏、そして仙台藩士となった白河氏が代表的です。分散した「同文書」には当時から大きな関心が寄せられ、書写して蒐集しようとする動きがありました。真山白河家が秘蔵してきた約160通の書写資料にもそのような、ある人物の意図がありました。

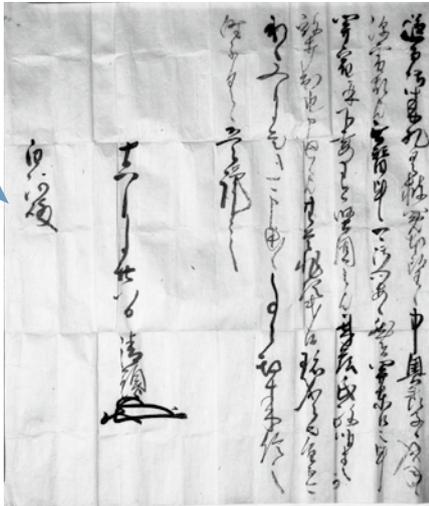


「白河結城家文書書写資料」の一部  
宛先は白川左兵衛尉殿、小峰修理大夫殿、白川七郎とのへ、などがみられ、差出人は輝虎（上杉謙信）、北畠中納言、豊臣秀吉・（武田）信玄、（佐竹）義重、（伊達）政宗ほか著名な人物の名前があります。

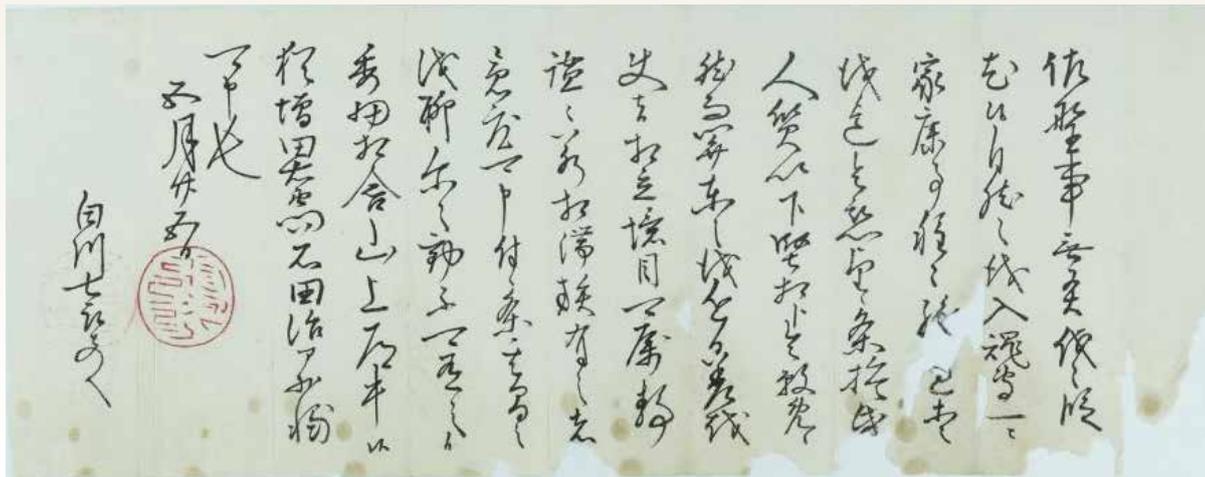


書写資料「田村清頭書状」  
12月28日 清頭→白河殿

2点をくらべてみてください！

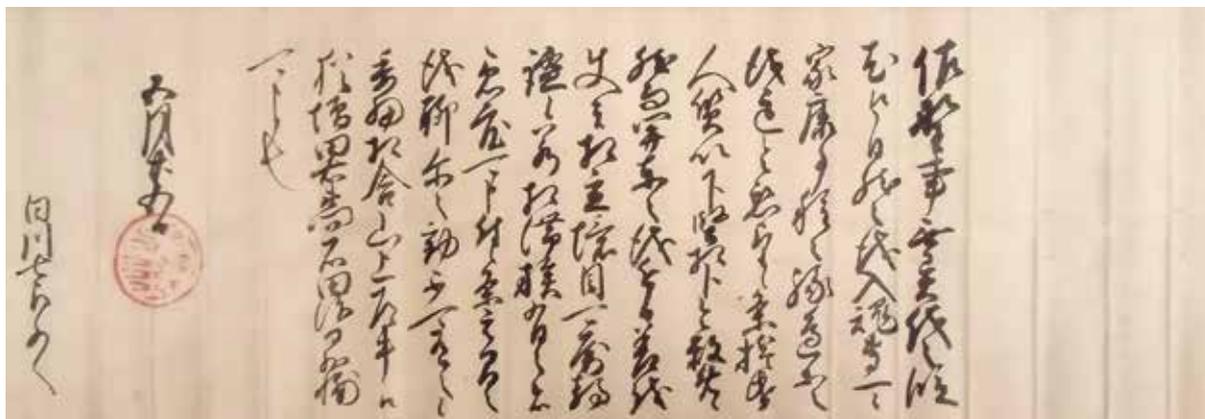


原本「田村清頭書状」  
12月28日 清頭→白河殿  
(東北歴史博物館所蔵)



書写資料「豊臣秀吉御朱印状」  
(天正14・1586年) 5月25日 (秀吉) 朱印→白川七郎 (義親) とのへ (檀紙)

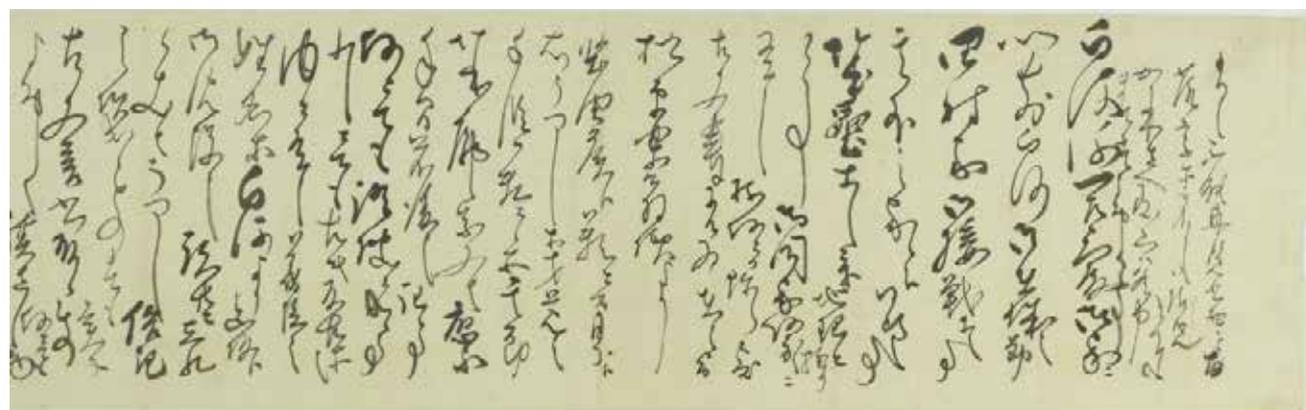
2点をくらべてみてください！



原本「豊臣秀吉御朱印状」結城白河家文書より (斐紙) (國學院大學図書館所蔵)



## \*書写資料作成、依頼主は松平定信でした



「紺野道謙宛 佐瀬主計伯連書状」(文化13・1816年) 閏8月1日  
一関藩家老佐瀬主計から、紺野道謙という人物に宛てた手紙です。紺野道謙は東作ともいい、志田郡古川町(現大崎市古川)在住の一関藩家臣で、仙台屋敷留守居をつとめていました。真山白河家には小笠原流軍礼・弓法の師匠として出入りをしていました。この手紙によれば、「白河弥一(七)左衛門殿の家に伝わる、白河在城の節の田村家やその他の家との接戦や、城堡ほか何か珍しい古文書などがあつたら写してほしい、と松平楽翁様(定信)から堅田侯(堀田正敦)に頼みがあつたこと」を伝えています。また、「楽翁様は家臣で儒学者の広瀬台八へ『白河古戦記』などの撰述を命じているので協力をどうかよろしく」との依頼。道謙は連絡役として、この手紙を北景秀に渡し、すべて依頼をおこなっています。



## 北景秀にもたらされた「依頼」

真山白河家文書には書写資料の作成にかかわる40通以上の手紙と日記1冊があります。いつ誰が、何を依頼して来たのか、これらの手紙から探ってみましょう。

## 40通の手紙に登場する人物



松平定信（1758—1829）  
（福島県立博物館所蔵）

将軍家の一族御三卿のひとつ田安家当主宗武の子として生まれ、徳川吉宗の孫にあたる。17歳の時、10代将軍家治の命により、白河藩主久松松平家の当主定邦の養子となり、26歳の時白河藩主となった。30歳となった天明7年（1787）に、幕府の老中首座に抜擢され、「寛政の改革」を行う。寛政5年（1793）、老中を辞して、再び白河藩政に専念する。「白河楽翁」と称し、当地の歴史に関心を寄せ、多くの文化事業に携わった。



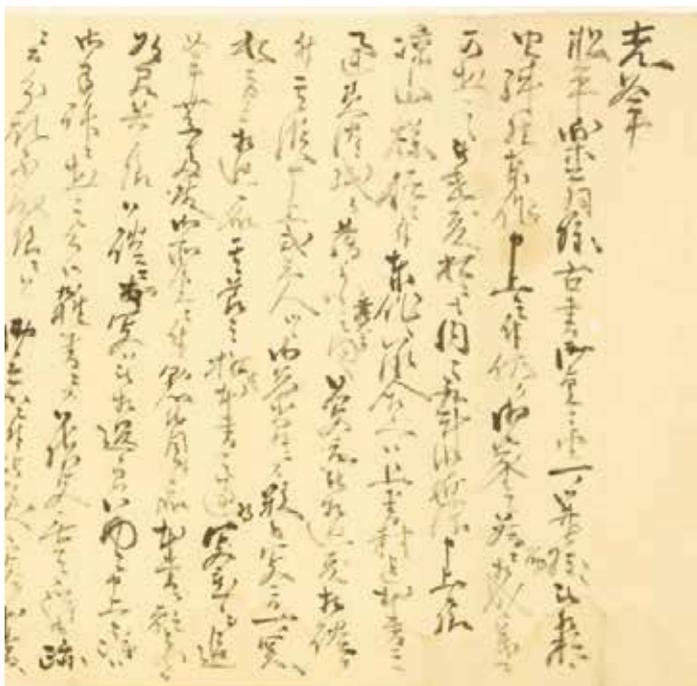
堀田摂津守正敦（1755—1832）

（個人蔵 写真提供：佐野市郷土博物館）  
近江国堅田藩主。のち佐野藩主。幕府の若年寄。実は仙台藩主伊達宗村の8男で仙台藩の後見。定信とは、いわば同好の友。

田村右京大夫宗顕（1784—1827）

一関藩主。実は堀田正敦の次男で、父からの依頼を受けて、家臣に「内々」に書写事業の手配を命じる。

## 誰がどのようにして写したの？



「北景秀（白河久馬）の回想・証言」  
先年

松平楽翁様古書御望之由、一ノ関様ニ被相頼候  
由、紺野東作申上候ニ付、何か御家之答筋ニ相成候義ニ  
可在之被遣度私ニも内々取計、御世話申上候様  
涼山様仰ニ付、東作へ承合候へ、上書・封迄、本書之  
通美濃紙か薄よふ之内へ御写取被相廻度相談ニ  
付、其段申上式三人ツツ御茶間ニ而数日写方、一ノ関へ  
私方々相廻候処、其節之扣共本書之通將写置しラ追  
年芝多殿御所望ニ付懸御目ニ候処

北景秀：  
本家の涼山（白河弥七左衛門）様からお世話するように言われたので、写し取る作業は上書・封まで本書の通り、美濃紙か、薄よふ（薄葉紙）に、2、3人ずつお茶の間で数日かけて写方をして、一ノ関には私方より送りました。



## 白河家に残る書写資料の謎??

真山白河家では、松平定信の求めに応じて、書写資料210通を江戸に送った!!

では、白河家に残る書写資料は何物?

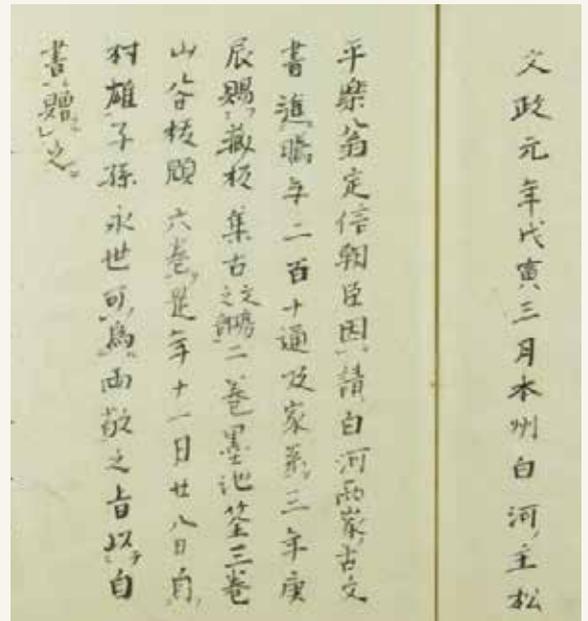
- ① 210通を送る時に控を取っておいた。
- ② 送らずに残したものがあつた。
- ③ 送ったものが後で戻された。

これからの課題です。

「藤原姓白河系譜」

「北基三郎景秀、のち白河久馬」の項より

「文政元年（1818）3月、本州白河の主松平樂翁定信朝臣の請いに因りて、白河両家の古文書謄写210通、及び家系を進む」とありました。



令和7年度有備館探検企画展  
**松平定信の書写収集事業**  
 真山白河家の歴史と書写資料  
 企画展期間：9月18日～11月24日  
 会場：岩出山公民館  
 企画展開催記念講演会  
 日時：令和7年10月4日（土）午後1時30分～3時30分  
 会場：岩出山公民館  
 講師：荒武賢一朗  
 対談：荒武賢一朗、菊地優子  
 大崎市教育委員会文化財課文化財調査員

### 〈企画展〉

展示会場：旧有備館および庭園

展示期間：2025年9月18日～11月24日

### 〈企画展開催記念講演会〉

日時：2025年10月4日（土）13:30～15:30

会場：大崎市岩出山公民館

講師：荒武賢一朗

（東北大学東北アジア研究センター  
上廣歴史資料学研究部門教授）

対談：荒武賢一朗、菊地優子

（大崎市教育委員会文化財課文化財調査員）

### 本誌作成者

監修：荒武賢一朗

執筆・編集：菊地優子

古文書解説：岩出山古文書を読む会

（扇明美・高橋武光・千葉康・宮田尚夫・笠原直子・中條俊江・遊佐章裕）

写真撮影：菅原達、庶務：大久保弥生